

8月の県内経済は、一部に持ち直しの動きが続いているものの、東日本大震災ならびに原発事故の影響などにより、全体では引き続き厳しい状況にある。

1. 平成23年8月の県内経済

県内経済は、一部に持ち直しの動きが続いているものの、東日本大震災や原発事故による影響などから、全体では引き続き前年を下回る水準にある。

消費動向をみると、大型小売店販売額（全店舗ベース）は、飲食料品および衣料品が前年を下回ったことなどから、合計でも前年同月比△1.6%となった。

また、乗用車新車販売は、前年の減税効果による反動減などから、合計で前年同月比△32.0%となった。

生産活動は、鉱工業生産指数が前月比△0.2%、前年同月比△9.2%となり、どちらも減少した。また、大口電力使用量は前年同月比△13.4%と6ヵ月連続で前年を下回った。

投資動向をみると、公共工事前払保証取扱は、件数が3ヵ月ぶり、請負金額が12ヵ月ぶりでそれぞれ前年を上回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数が4ヵ月連続で前年を下回った。新設住宅着工戸数は、前年同月比+59.3%と9ヵ月ぶりで前年を上回った。

企業倒産（負債金額10百万円以上）は、件数が前年と変わらなかったが、負債総額は4ヵ月ぶりで前年を下回った。雇用情勢は、震災復旧関連の求人が引き続き増えてはいるものの、雇用保険受給者実人員が前年を大きく上回るなど、厳しい状況が続いている。

〔消費動向・足踏み〕

8月の大型小売店販売額（全店舗ベース）は、飲食料品および衣料品が前年を下回ったことなどから、合計でも188億94百万円（前年同月比△1.6%）と3ヵ月ぶりで前年を下回った。8月の乗用車新車販売は、普通車、小型車、軽乗用車とすべての車種が落ち込み、合計でも12ヵ月連続で前年を下回った。8月の消費者物価指数は99.7となり、前月比で+0.2%、前年同月比では+0.5%となった。個別企業の販売動向をみると、8月の家電量販店は、震災による買換え需要の一巡と昨年のエコポイント効果による反動減などから、前年同月を下回る売上となった。一方、8月のホームセンターは、節電対策に関連する生活用品を中心に前年を大きく上回る売上となった。8月の旅行取扱額は、国外旅行が前年を下回ったものの、団体客を中心に国内旅行が前年を大きく上回ったことから、合計でも前年の2倍以上となった。

〔投資動向・持ち直し〕

8月の公共工事前払保証取扱は、件数が723件（前年同月比+38.5%）と3ヵ月ぶり、請負金額は214億27百万円（同+22.2%）、保証金額は103億円（同+53.4%）と12ヵ月ぶりでそれぞれ前年を上回った。7月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が100棟（前年同月比△26.5%）、床面積が44,701㎡（同△28.1%）、工事費予定額が40億48百万円（同△59.3%）となった。8月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲とも前年を上回り、合計でも1,064戸（前年同月比+59.3%）と9ヵ月ぶりで前年を上回った。

〔生産活動・足踏み〕

7月の鉱工業生産指数は、85.9（季節調整値）で前月比△0.2%と4ヵ月ぶり、原指数は89.7で前年同月比△9.2%と5ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。8月の大口電力販売量は、487百万kw/h（前年同月比△13.4%）と6ヵ月連続で前年を下回った。

〔企業倒産・横ばい〕

8月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が10件で前年と変わらず、負債総額が7億14百万円（前年同月比△26.3%）と4ヵ月ぶりで前年を下回った。

〔金融動向・預金、貸出金増加〕

預金残高は前年同月比+11.1%と54ヵ月連続、貸出金残高は同+1.2%と4ヵ月連続でともに前年を上回った。

〔雇用動向・やや改善の動き〕

8月の新規求人倍率は、原数値が1.19倍（前年同月比+0.37ポイント）、季節調整値が1.05倍（前月比△0.06ポイント）となった。また、8月の有効求人倍率は、原数値が0.65倍（前年同月比+0.21ポイント）、季節調整値が0.64倍（前月比+0.02ポイント）となった。一方、8月の雇用保険受給者実人員は22,609人となり、前年同月比で+84.8%となった。

県内経済動向の概要

	項 目	前 年 同 月 比					
		23年3月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	▲ 23.1	▲ 12.7	▲ 5.2	2.1	3.5	▲ 1.6
	乗用車新車登録台数	▲ 60.2	▲ 38.4	▲ 34.0	▲ 24.1	▲ 27.4	▲ 32.0
	消費者物価指数（総合）	▲ 1.5	▲ 0.6	▲ 0.9	▲ 0.6	0.3	0.5
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	▲ 48.9	▲ 45.6	▲ 35.7	▲ 37.0	▲ 38.8	22.2
	建設着工棟数（民間・非居住用）	1.7	▲ 35.9	▲ 35.3	▲ 15.1	▲ 26.5	—
	新設住宅着工戸数	▲ 21.0	▲ 29.4	▲ 39.7	▲ 42.1	▲ 19.2	59.3
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	▲ 37.7	▲ 27.1	▲ 13.4	▲ 7.4	▲ 9.2	—
	大口電力販売量	▲ 40.2	▲ 37.1	▲ 21.4	▲ 14.9	▲ 12.6	▲ 13.4
企業倒産	企業倒産件数注2	▲ 30.0	▲ 40.0	240.0	57.1	▲ 53.8	0.0
	企業倒産金額注2	126.8	▲ 71.6	0.9	38.5	86.3	▲ 26.3
金融動向	預 金	2.6	6.0	7.5	10.1	10.6	11.1
	貸 出 金	▲ 0.5	▲ 0.5	0.3	0.9	0.9	1.2
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注1	0.11	0.10	0.09	0.13	0.17	0.21
	新規求人倍率（パート含む）注1	0.09	0.03	0.02	0.29	0.45	0.37

注1 原指数 注2 負債総額10百万円以上

	項 目	前 月 比					
		23年3月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	▲ 13.7	10.5	10.6	2.0	9.2	▲ 3.2
	乗用車新車登録台数	▲ 25.3	▲ 21.6	2.3	45.7	5.0	▲ 13.8
	消費者物価指数（総合）	0.0	0.7	▲ 0.3	▲ 0.2	0.0	0.2
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	112.0	▲ 5.6	▲ 30.5	63.9	34.2	30.4
	建設着工棟数（民間・非居住用）	10.8	▲ 31.7	▲ 21.4	62.1	5.6	—
	新設住宅着工戸数	3.6	▲ 23.8	12.5	5.1	24.6	66.8
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	▲ 28.5	12.8	18.9	7.8	▲ 0.2	—
	大口電力販売量	▲ 40.5	7.6	20.9	15.3	11.5	▲ 6.4
企業倒産	企業倒産件数注2	133.3	▲ 14.3	183.2	▲ 35.3	▲ 45.5	66.7
	企業倒産金額注2	554.7	▲ 94.3	392.8	17.8	189.7	▲ 91.5
金融動向	預 金	0.8	4.0	1.5	3.7	▲ 0.3	0.4
	貸 出 金	0.4	▲ 0.8	0.2	0.6	0.8	0.02
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注1	▲ 0.01	0.00	0.02	0.07	0.05	0.02
	新規求人倍率（パート含む）注1	0.03	▲ 0.05	0.05	0.25	0.07	▲ 0.06

注1 季節調整値 注2 負債総額10百万円以上

2. 県内経済動向

— 消費動向 —

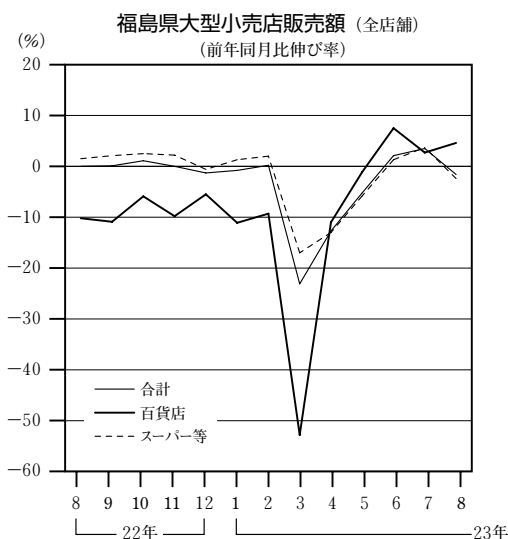
大型小売店 8月の県内大型小売店の販売額は、飲食料品および衣料品が前年を下回ったことなどから、合計でも188億94百万円（前年同月比△1.6%）と3ヵ月ぶりで前年を下回った。一方、既存店ベースでは、前年同月比+2.3%と前年を上回った。（注：既存店とは調査月において当月と前年同月でともに存在した事業所の数値。）

業態別にみると、百貨店は、主力の衣料品、飲食料品とも前年を上回り、全店舗ベースの合計では22億49百万円（前年同月比+4.6%）と3ヵ月連続して前年比で増加した。また、既存店ベースでも前年同月比+4.6%となった。

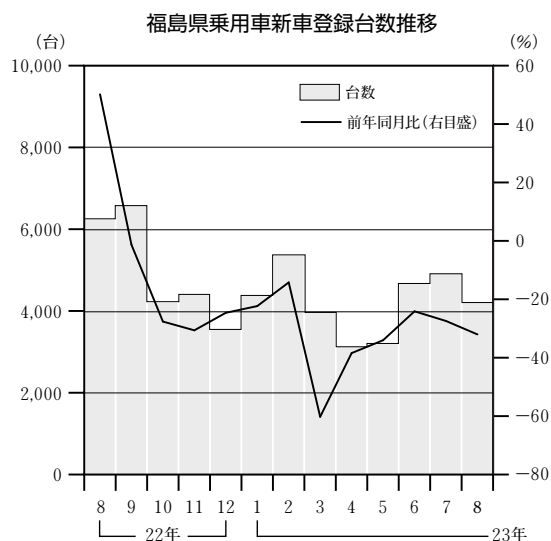
一方、スーパーは、家具・家電・家庭用品が前年を上回ったものの、飲食料品および衣料品が前年割れしたことなどから、全店舗ベースの合計でも166億45百万円（同△2.4%）と3ヵ月ぶりで前年を下回った。但し、既存店ベースでは、前年同月比+1.9%となった。

乗用車販売 8月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で4,269台（前年同月比△32.0%）と前年の減税効果による反動減が大きく、12ヵ月連続の前年割れとなった。車種別で見ると、普通車は1,344台（同△29.0%）、軽乗用車は1,359台（同△29.7%）と11ヵ月連続、小型車は1,566台（同△36.1%）と12ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。

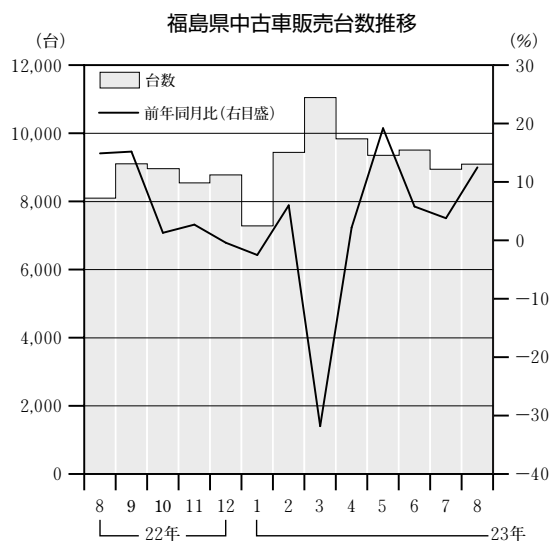
8月の乗用車中古車販売台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で9,166台（前年同月比+12.5%）と5ヵ月連続で前年を上回った。車種別にみると普通車は2,690台（同+20.5%）と4ヵ月連続、小型車は3,411台（同+6.6%）、軽乗用車は3,065台（同+12.8%）と5ヵ月連続でそれぞれ前年を上回った。



（資料：経済産業省）



（資料：㈱日本自動車販売協会連合会福島県支部）



（注）軽自動車は名義変更台数含む
資料：㈱日本自動車販売協会連合会 福島支部
㈱全国軽自動車販売協会連合会

消費者物価指数 8月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成22年=100）で見ると、99.7と前月比で+0.2%、前年同月比では+0.5%となった。

費目別にみると、「交通通信」が103.3（前月比+0.8%）、「教養・娯楽」が94.7（同+0.6%）などとなり、4費目が前月比で上昇した。一方、「被服及び履物」が94.0（同△3.2%）などとなり、2費目が前月比で下降した。

家電量販店 8月の家電量販店の売上高は、震災による買換え需要の一巡と昨年のエコポイント効果による反動減などから、前年同月を下回った。

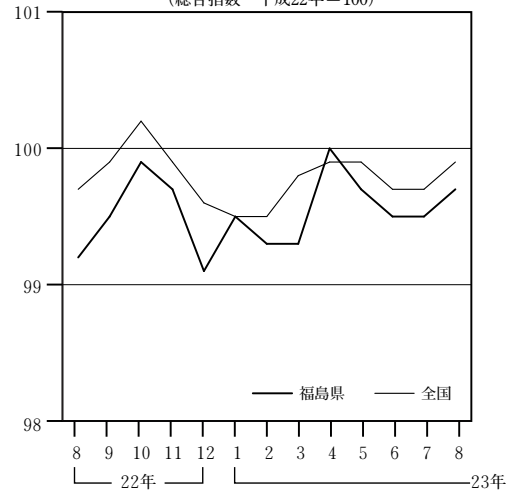
ホームセンター 8月のホームセンターの売上高は、原発事故の影響からアウトドア用品が前年を下回ったものの、節電対策に関連する生活用品などが好調となり、合計でも前年を上回った。

旅行 8月の旅行取扱額実績は、国外旅行が前年を下回ったものの、夏季休暇中の行政主催による県内旅行が好評となり、団体客を中心とした国内旅行が前年を大きく上回ったことから、合計でも前年の2倍以上となった。

高速道路 8月の県内自動車道出入口数は、被災証明書および罹災証明書による利用料無料措置の影響が大きく、合計で7,202,947台（前年同月比+57.9%）と4ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は、4,172,184台（同+67.0%）と5ヵ月連続で前年を上回った。また、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は、610,748台（同+79.0%）、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は、1,114,642台（同+56.9%）、常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は1,305,373台（同+29.1%）となり、それぞれ3ヵ月連続で前年を上回った。

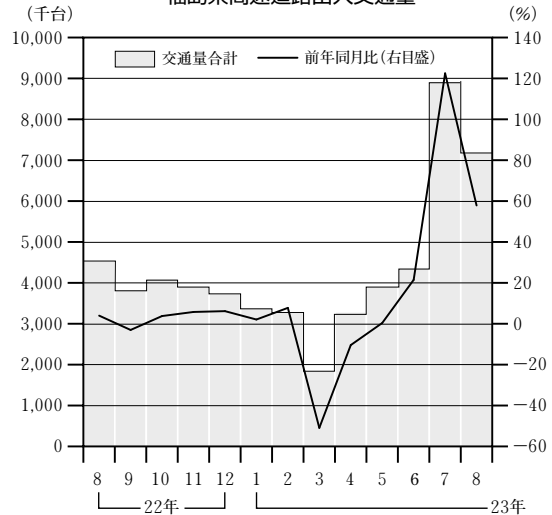
福島空港 8月の福島空港国内定期路線の利用状況は、22,682人（前年同月比+9.1%）と前年を上回った。路線別にみると、札幌便は11,668人

福島県消費者物価指数
(総合指数 平成22年=100)



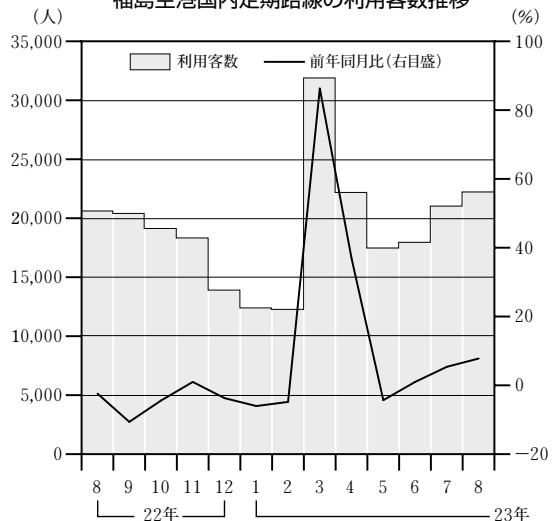
(資料：総務省統計局)

福島県高速道路出入交通量



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

福島空港国内定期路線の利用客数推移



(資料：福島県商工労働部空港交流課)

(同+18.1%)、大阪便は10,750人(同△1.5%)となった。一方、国際定期路線については、ソウル便ならびに上海便とも、全便運休により、利用実績はなかった。

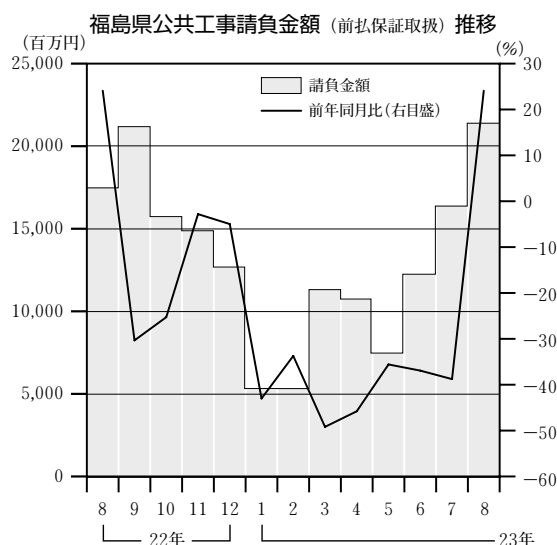
—— 投資動向 ——

公共工事 8月の公共工事前払保証取扱は、件数が723件(前年同月比+38.5%)と3ヵ月ぶりで前年を上回った。請負金額は214億27百万円(同+22.2%)、保証金額は103億円(同+53.4%)となり、それぞれ12ヵ月ぶりで前年を上回った。また、年度累計(2011年4月~8月)では、件数が2,294件(前年同期比△13.4%)、請負金額が683億25百万円(同△28.2%)、保証金額が303億55百万円(同△13.5%)となっている。8月の主な発注者別請負金額をみると、国が28億18百万円(同+70.6%)、県が81億38百万円(同+55.6%)、市町村が100億65百万円(同+9.2%)となった。

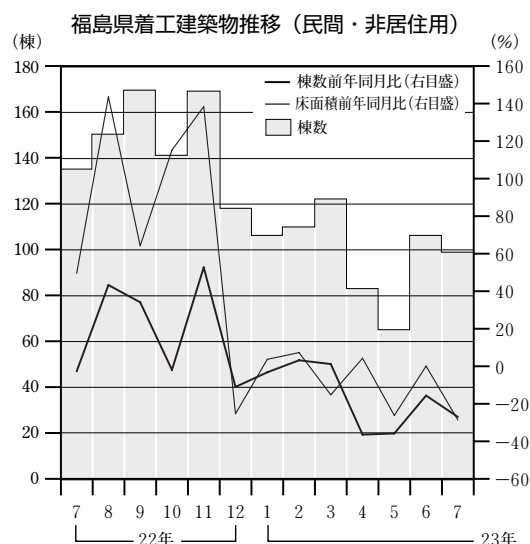
設備投資 7月の建築着工(民間・非居住用)は、棟数が100棟(前年同月比△26.5%)と4ヵ月連続で前年を下回った。また、床面積は44,701㎡(同△28.1%)、工事費予定額は40億48百万円(同△59.3%)となった。

7月の建築物確認件数(計画変更を除く)は、921件(前年同月比+24.3%)と5ヵ月ぶりで前年を上回った。建築物別にみると、1~3号建物(一定規模以上の建築物が対象)は179件(同+12.6%)と5ヵ月ぶりで前年を上回った。4号建物(小規模な木造・非木造住宅などが対象)は742件(同+27.5%)と7ヵ月ぶりで前年を上回った。「構造計算適合性判定合格件数」は20件となり、前月比で10件増えた。

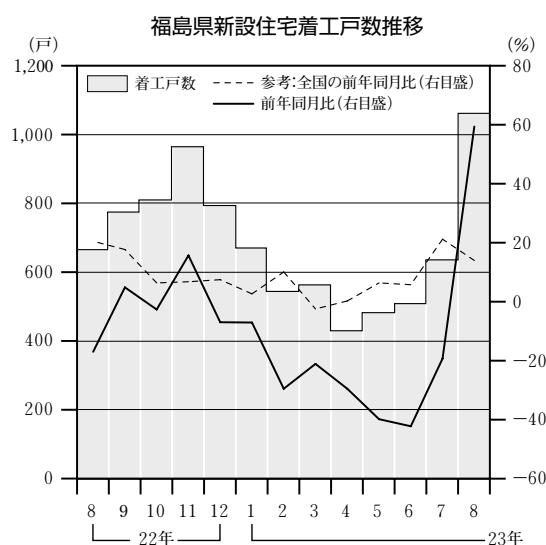
建築物着工の先行指標である7月の建築物申請件数は、900件(同+20.0%)と5ヵ月ぶりで前年を上回った。建築物別にみると、1~3号建物は172件(同△4.4%)と2ヵ月ぶりで前年を下回っ



(資料：東日本建設業保証㈱)



(資料：国土交通省)



(資料：国土交通省)

た。4号建物は728件(同+27.7%)と5ヵ月ぶりで前年を上回った。「構造計算適合性判定申請件数」は21件と、前月比で7件増加し、2ヵ月連続で前月を上回った。

住宅建設 8月の県内新設住宅着工戸数は、1,064戸(前年同月比+59.3%)と9ヵ月ぶりで前年を上回った。主な利用関係別にみると、「持家」は603戸(同+27.8%)と7ヵ月ぶり、「貸家」は371戸(同+134.8%)と5ヵ月ぶり、「分譲」は82戸(同+121.6%)と2ヵ月ぶりでそれぞれ前年を上回った。一方、マンションの着工戸数は9ヵ月連続でゼロとなった。

—— 生産活動 ——

鉱工業生産指数 7月の鉱工業生産指数は、85.9(季節調整値)で前月比 Δ 0.2%と4ヵ月ぶり、原指数は89.7で前年同月比 Δ 9.2%と5ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。

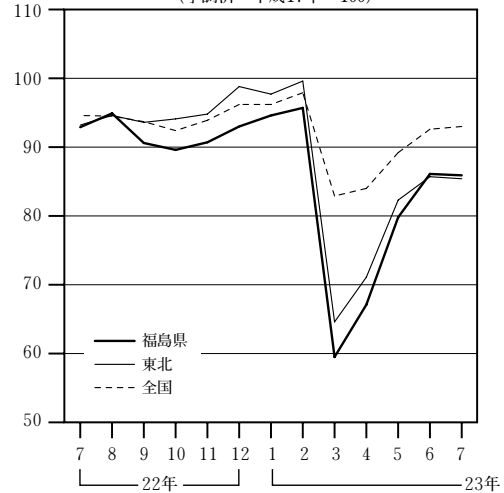
業種別の季節調整値をみると、「非鉄金属工業」(前月比+38.9%)、「化学工業」(同+15.7%)など9業種で上昇したが、「食品・たばこ工業」(同 Δ 12.7%)、「精密機械工業」(Δ 10.5%)など11業種で下降している。

※福島県では、調査対象企業のうち、震災の影響により調査できない約3%の企業の生産額は0として処理している。

化学 8月の食品包装フィルム用合成樹脂は、フル生産を続け、前年並みの生産水準となった。また、金属代替プラスチックも、自動車向け受注の持ち直しから、ほぼ前年と変わらない生産を確保した。一方、バリウム化合物(電子部品原料)は、薄型テレビの減産による影響などから、引き続き当初計画を下回る生産水準となった。

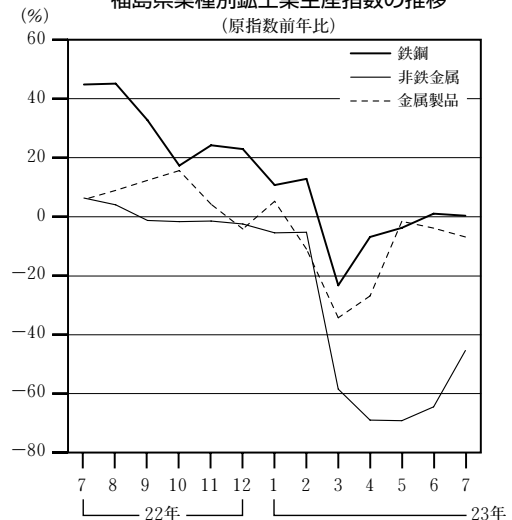
鉄鋼・金属 8月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材が震災前の受注量を確保したものの、半導体向け電子材が円高と新興国メーカーとの競合

福島県鉱工業生産指数(全国、東北との比較)
(季調済 平成17年=100)



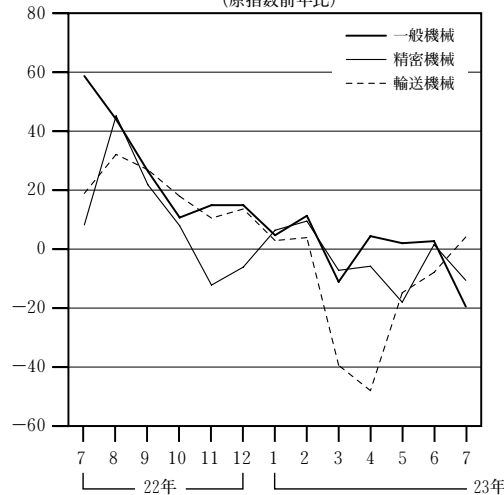
(資料：福島県企画調整部統計調査課)

福島県業種別鉱工業生産指数の推移
(原指数前年比)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

福島県業種別鉱工業生産指数の推移
(原指数前年比)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

からやや生産水準を落としたため、全体では前年をやや下回る水準となった。建機用鋳造品は、新興国向けの安定した受注を背景に前年比で2倍程度の生産となった。また、陸船用バルブの生産は、船舶向けの受注が前年を下回ったが、プラント向けの受注が前年並みとなったことから、全体でも前年と同程度の水準を確保した。

輸送用機械 8月の鋳造品は、トラック向けがアジアを中心とした新興国の受注が増えたため、前年を2割以上上回る生産となった。また、オイルシールの生産は、自動車メーカーの受注が上向いており、前年を10%程度上回る水準となった。カーナビおよびカーオーディオは、自動車メーカーの操業度が上がってきたことから、前年をやや下回る生産水準まで回復した。

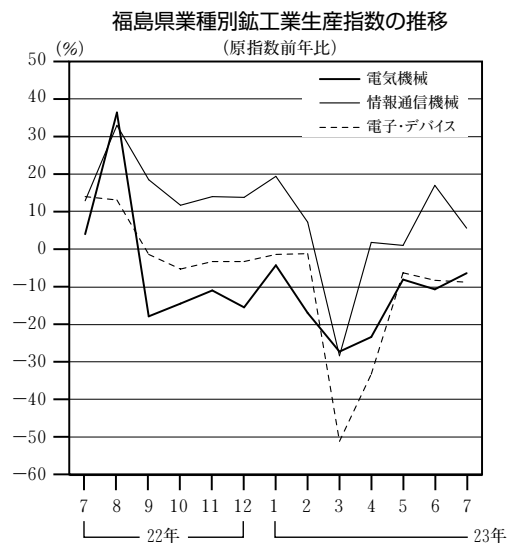
電気機械 8月の配電盤は、火力発電所向けの生産が続いており、引き続き前年を上回る生産となった。一方、自動車モーターの生産は、自動車メーカーの生産水準が上がってきているものの、前年をわずかに下回る水準となった。

情報通信機械 8月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器は、アジア向けを中心に受注を確保し、前年を3割程度上回る生産となった。

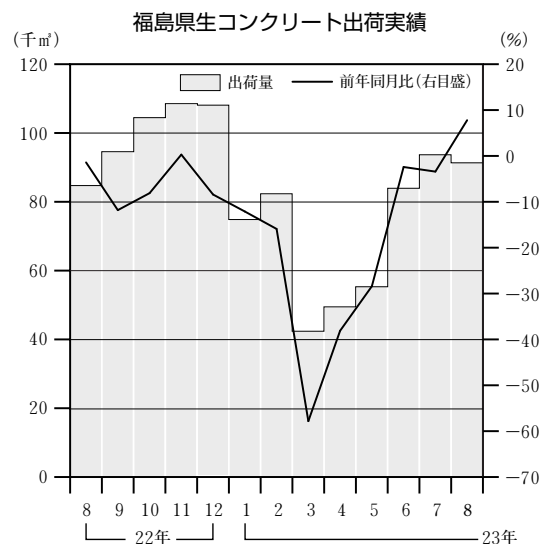
電子部品・デバイス 8月のLSI（大規模集積回路）の生産は、AV・ゲーム機・家電および産業機器向けの受注が前年を下回り、全体でも前年をわずかに下回った。

精密機械 8月の医療用内視鏡の生産は、国内向け製品の操業度が上昇したため、総体でも前年を3割以上上回る水準となった。また、デジタル一眼レフカメラ用レンズの生産は、欧米向けが好調だが、円高の影響により金額ベースでは前年並みにとどまった。

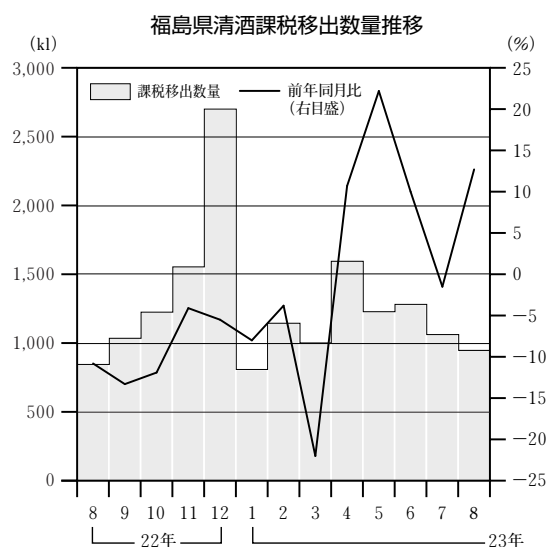
紙・紙加工品 8月のダンボールの生産は、農作物向けが前年を上回ったが、自動車向けが前年を下回ったことなどから、全体ではほぼ前年並みの水準となった。また、ノーカーボン紙および感熱



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)



(資料：福島県酒造組合)

紙は、生産設備も復旧しており、前年並みの受注量を確保している。

窯業・土石 8月の生コンクリート出荷量は、全体で91,864m³（前年同月比+7.8%）と9ヵ月ぶりで前年を上回った。地区別にみると、県中地区では商業施設や医療機関などの新築工事、いわき地区では原発の復旧工事や火力発電所の増設工事などにより、前年を上回る出荷量となった。一方、相双地区では、東日本大震災の影響から、民需の大幅な減少が続いた。

清酒 8月の清酒移出数量は、970kl（前年同月比+12.7%）と2ヵ月ぶりで前年を上回った。酒類別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が433kl（同+30.2%）と5ヵ月連続で前年を上回った。一般酒（特定名称酒以外の酒）は、537kl（同+1.7%）と35ヵ月ぶりで前年を上回った。

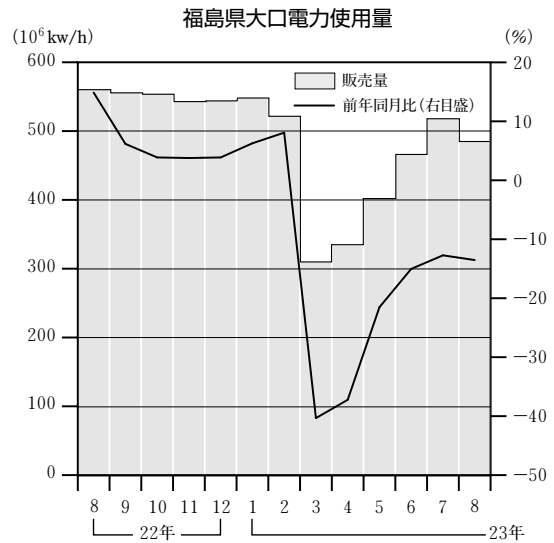
化合繊維物 8月のナイロンは、ダウンジャケットの表地向けが最盛期にあり、震災による特需もあったことから、前年を大きく上回る生産額となった。

ニット 8月のニットは、秋冬物のフル生産となり、前年並みの生産を確保した。

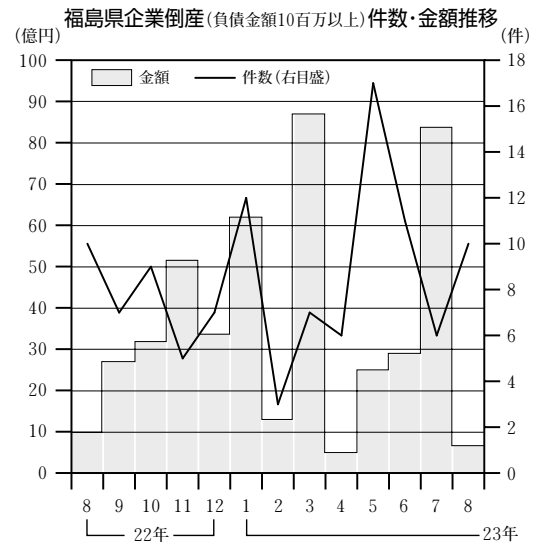
大口電力 8月の大口電力販売量は、487百万kw/h（前年同月比△13.4%）と6ヵ月連続で前年を下回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で117百万kw/h（同△16.8%）、「電気機械」で92百万kw/h（前年同月比△14.1%）、「輸送用機械」で53百万kw/h（同△2.5%）、「化学」で46百万kw/h（同△17.0%）、「一般機械」で26百万kw/h（同△8.1%）、「紙・パルプ」で13百万kw/h（同△10.4%）となっている。

—— 企業倒産 ——

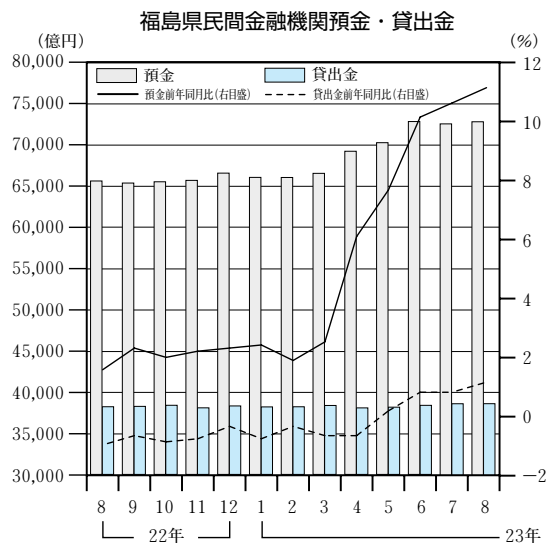
企業倒産 8月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、倒産件数が10件で前年と変わらず、負債



(資料：東北電力福島支店)



(資料：帝国データバンク福島支店)



(資料：日本銀行福島支店)

総額が7億14百万円（前年同月比△26.3%）と4ヵ月ぶりで前年を下回った。また、業種別では、建設業が3件、小売業が2件、製造業、卸売業、運輸・通信業、不動産業、その他が各1件となった。

年間累計（2011年1月～8月）で見ると、倒産件数が72件（前年同期比△2.7%）、負債金額が311億63百万円（同+41.8%）となっている。

金融動向

資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の8月末の預金残高は、7兆2,891億円（前年同月比+11.1%）と54ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,688億円（同+1.2%）と4ヵ月連続で前年を上回った。

保証協会 8月の保証承諾は、件数が1,970件（前年同月比+86.9%）、保証金額が305億90百万円（同+194.8%）となり、震災復興関連で大幅に増加した。また、8月末日現在の保証債務残高は、件数が46,950件（同+9.1%）、金額が4,533億53百万円（同+30.1%）となった。一方、8月中の代位弁済は、件数が50件（同△28.6%）、金額が3億14百万円（同△50.6%）となり、件数、金額とも2ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。

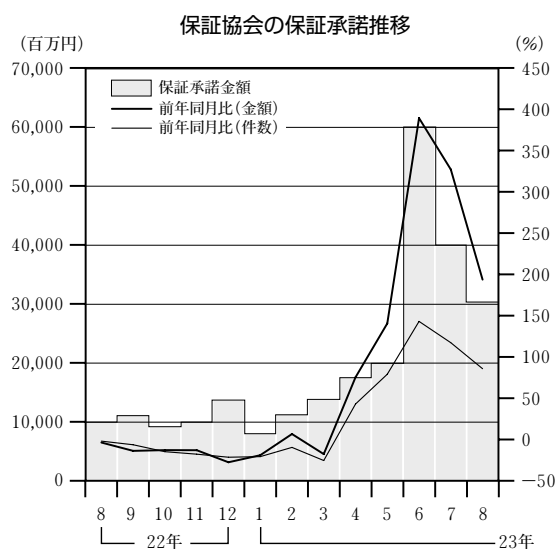
雇用動向

雇用動向 8月の新規求職申込件数（原数値）は10,778件（前年同月比+2.5%）と2ヵ月ぶり、新規求人数（原数値）は12,779人（前年同月比+48.5%）と5ヵ月連続でそれぞれ震災復興関連により前年を上回った。

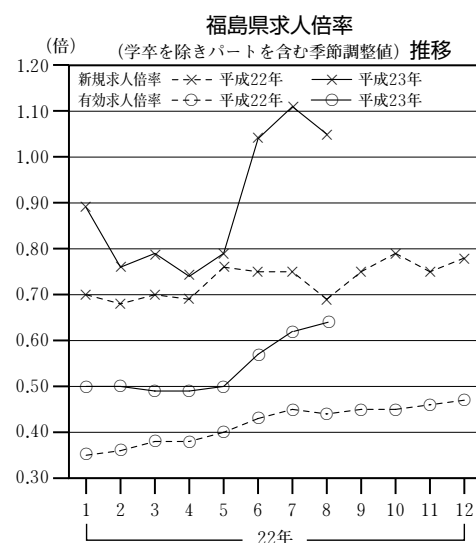
8月の新規求人倍率は、原数値が1.19倍（前年同月比+0.37ポイント）、季節調整値が1.05倍（前月比△0.06ポイント）となった。また、8月

の有効求人倍率は、原数値が0.65倍（前年同月比+0.21ポイント）、季節調整値が0.64倍（前月比+0.02ポイント）となり、原数値が17ヵ月連続、季節調整値が4ヵ月連続でそれぞれ上昇した。

一方、8月の雇用保険受給者実人員は22,609人となり、東日本大震災により雇用保険給付条件が緩和されたこともあるが、厳しい雇用情勢を反映して前年同月比で+84.8%となった。



(資料：福島県信用保証協会)



(資料：福島労働局職業安定部)